

『これまでの取り組みと今後』

福井町長

平成29年2月に出羽島が文化庁の重要伝統的建造物群の選定を受けた。牟岐町の長い歴史の中で、先代が築き残してきた物が多く、この方の理解と共に感を得たことを嬉しく思う。今後とも、昔の町並みを取り戻せるよう整備を進め保存に努めると共に、観光振興に役立たい。

5月の連休明けには、海部病院が高台に移転し診療を開始した。東日本大震災以降、南海・東南海地震がいつ発生してもおかしくないと言われる中、小学校、保育所、給食センターに続き、災害弱者施設の病院を優先的に高台に移転したもので、今後、災害時の拠点として、大いに活躍が期待される。

しかしながら、牟岐小学

校や保育所、更には病院が高台に移転し、中心市街地

国においては、平成26年の『まち・ひと・しごと創生法』の制定以来、「これが地方再生の最後のチャンス」、あるいは「頑張らなければ市町村は応援できない」と市町村を叱咤激励し、が成果が出でていない。

現在、民間空き家は、役場内に空き家バンクを設置し、その活用を図るべく取り組んでいるが、公共施設も、今後、処分や活用を検討する専門の部署を設置し、前向きな取り組みを進めていきたい。



牟岐町役場

町長所信（要旨）

取り組みを進めたい。

さて、平成27年の地方創生事業の開始から今年で3年目となる。

国においては、平成26年

の『まち・ひと・しごと創生法』の制定以来、「これが地方再生の最後のチャンス」、あるいは「頑張らなければ市町村は応援できない」と市町村を叱咤激励し、が成果が出でていない。

そこで、施策として、国を挙げ観光振興を進めようとしている。確かに、観光建設業よりも効果があるといわれるが、3~4年の短期に簡単に効果が上がるものではなく、観光拠点の創

造から、特産品の製造、宿泊施設の整備まで、また、町民の皆様の意識改革まで、長期に渡る取り組みが必要である。

地方創生は一朝一夕に出来るものではないが、先人達が創り残してきた町や村、また、町独自の文化を後世に残すためには、必ず成しえばならない課題である。

町村は、これまでのようないつまでも都会へ若者を送り続けることは困難となる。牟岐町を離れた人々にもふるさとに帰つてもらえるよう、今後とも、我々は、地方創生の取り組みを粘り強く継続していく必要がある。

自らのふるさとが廃墟とならないよう、子孫がふるさとに誇りと愛情を持ち住む続けられるよう、また、

牟岐町を離れた人々にもふるさとに帰つてもらえるよう、今後とも、我々は、地方創生の取り組みを粘り強く継続していく必要がある。